

別表第1 評価領域及び行動プロセスに関する着眼点

※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

特別支援学校助教諭（講師含む）

評価領域		着眼点
I 教科指導等	指導計画の作成・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や関係機関と連携し、幼児児童生徒一人一人の障害の状態及び発達段階や特性等に応じた具体的な指導計画等を作成している。</li> <li>授業の充実を図るため、他の教諭と連携しながら常に教材研究に努めている。</li> <li>幼児児童生徒の実態やニーズを踏まえて指導目標を設定し、年間を通じて計画的に授業を進めている。</li> <li>保護者と連携しながら、適宜、指導計画を見直し、工夫・改善を行っている。</li> </ul>
	学習指導と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法や教材・教具の工夫等により、幼児児童生徒の学習意欲を高めている。</li> <li>幼児児童生徒の実態に即した指導が行われ、指導内容は適切である。</li> <li>学習指導に関する知識・技能が発揮され、幼児児童生徒の理解を促進している。</li> <li>指導と評価の一体化を図り、他の教諭と連携しながら学習指導の工夫・改善に努めている。</li> </ul>
II 学部・学年・学級経営・生徒指導等	学部・学年・学級経営、生徒指導、進路指導、特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間で学部・学年運営上の課題を共有するなど、相互理解に努めている。</li> <li>教育相談的な対応に心がけ、個々の理解に努めながら適切な生徒指導を行っている。</li> <li>活動内容や指導方法を工夫し、幼児児童生徒の能力を高め、特性を発揮させている。</li> <li>生徒の実態に応じ、卒業後の生活を考慮に入れた進路指導を行っている。</li> <li>家庭や地域、関係機関と連携し、組織的な対応に努めている。</li> </ul>
III その他の校務等	校務分掌等	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌の意義や自らの役割を理解し、適切な活動を展開し、責任を果たしている。</li> <li>分掌等の課題について改善策を示すなど、学校運営に参画している。</li> <li>保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりを推進している。</li> <li>教育公務員として、高い自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。</li> </ul>
チームワーク行動		<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に円滑なコミュニケーションを取りながら、キャリア段階ごとに期待される行動を行っている。</li> </ul>